

その他

「広いフィールド観」を持つ学生を育てるための取り組み
ー集中FD研修会の成果ー

Initiative education for nursing students who would get the broad fields
ー The achievement of intensive faculty development workshop ー

加藤星花 平田美和 齋藤尚子 足立奈穂 田所由利子 八鍬類子 吉田澄恵

Seika KATO, Miwa HIRATA, Naoko SAITO, Naho ADACHI, Yuriko TADOKORO, Ruiko YAKUWA, Sumie YOSHIDA



東京医療保健大学
TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY

〈そ の 他〉

「広いフィールド観」を持つ学生を育てるための取り組み －集中FD研修会の成果－

Initiative education for nursing students who would get the broad fields
－The achievement of intensive faculty development workshop－

加藤星花 平田美和 齋藤尚子 足立奈穂 田所由利子 八鍬類子 吉田澄恵

東京医療保健大学 千葉看護学部

Seika KATO, Miwa HIRATA, Naoko SAITO, Naho ADACHI, Yuriko TADOKORO, Ruiko YAKUWA, Sumie YOSHIDA

Chiba Faculty of Nursing Tokyo Healthcare University

要 旨：2018年度に千葉看護学部が開設し、初年度からFD（Faculty Development）委員会では、看護学教育における教員の能力向上を目指して、月に1回の定期FD研修会と年2回の集中FD研修会を開催した。夏季および春季に開催した集中FD研修会では、千葉看護学部の全教員を対象とし、本学部の目指す「広いフィールド観」を持つ学生の育成をテーマにグループディスカッションを主体とした研修会を行った。2回の集中FD研修会を通して、「広いフィールド観」の多様な捉え方や学生に育成したい能力について、教員同士さらには学部全体で共有できた。また、教員個々人が、千葉看護学部の一員として発展・協働していくための基盤を作ることができた。

キーワード：広いフィールド観、Faculty Development、委員会活動、看護系大学、大学教員

Keywords：

I. はじめに

東京医療保健大学千葉看護学部は2018年4月に開設された。本学部は地域医療機能推進機構（JCHO：Japan Community Health care Organization）と連携し、地域医療へ積極的に参画できる応用力と柔軟性を携えた「広いフィールド観」を持ち、どのような健康状態であっても一人ひとりが願う暮らしの実現を支援できる看護職を育成するためのカリキュラムを展開している。

大学におけるファカルティ・ディベロップメント（以下、FD：Faculty Development）の実施は、1999年に努力義務となり、2007年の大学院および大学設置基準の見直しに伴い義務化された。その一方で、看護系大学が質の高い看護職の育成という社会の要請に応えていくためには、看護職としての実務能力と看護学を学問として教授する能力の両方を兼ね備えた大学教員の能力を組織的に開発していくことが喫緊の課題

となっている¹⁾。

千葉看護学部では、初年度からFD委員会が設置された。筆者らFD委員会は、委員会の年間目標を「千葉看護学部の教育・研究の特色を創造するFD企画を実施し、千葉看護学部の教員同士でFDを活性化出来る基盤を作る」として活動を開始した。主な活動として、月1回の定期FD研修会と年2回の集中FD研修会を開催した。

このうち、集中FD研修会は全教員を対象とし、夏季（9月）と春季（3月）に開催し、本学部が目指す「広いフィールド観」を持つ学生の育成をテーマとした。この「広いフィールド観」は、本学部の看護教育を象徴する言葉として、学部パンフレットのトップページにも掲げられている。この2回の集中研修によって、千葉看護学部の全教員が「広いフィールド観」という言葉の多様な捉え方や学生に育成したい能力を共有でき、今後の発展・協働の機会を作ることができた。本稿では、その概要と取り組みについて報告する。

Ⅱ. 夏季集中FD研修会および 春季集中FD研修会の概要

1. 夏季集中FD研修会

- 1) 開催日時：2018年9月25日 13時00分～16時00分
- 2) テーマ：千葉看護学部が学生に求める「広いフィールド観」を育てる看護教育ビジョンを考える
- 3) 目的：

学部の教員組織としての能力開発に主軸を置き、看護の視点に求める「広いフィールド観」に焦点を当てる。千葉看護学部として目指す看護の方向性を確認した上で、基盤となりうる「広いフィールド観」を育てるための今後のビジョン・取り組みを、個々の教員が表出・共有する機会とする。

- 4) 対象：千葉看護学部全教員
- 5) 参加者：20名
- 6) 研修会の内容

研修会に先立ち、参加教員に対して「広いフィールド観とは何か」「『広いフィールド観』を持つ学生を育てるためにできること」について、必要に応じ周囲と意見交換をしたうえで、各自意見をまとめることを事前課題として提示した。意見交換を提案したのは、助教や助手等の教育経験の少ない教員が「広いフィールド観」について1人で考えることが難しいのではないか、という意見がFD委員会であったためである。研修会の進め方は、個々の教員が事前に考えてきた「広いフィールド観」について、より多くの意見交換の場となるよう、グループディスカッションを主体とした。最初に、学部長より「広いフィールド観を育てる本学部における看護教育の方向性」をテーマに講演をしてもらい、その後、①「広いフィールド観とは」②「広いフィールド観を持つ学生を育てるためにできること」の2点について、グループディスカッションを実施した。グループの構成は、様々な看護学領域の教員と意見交換ができることと、自由に考えを表出できることを実現するために、複数の領域が混在する職位別の5～6名のメンバーで編成した。グループディスカッションの内容はコピー機能付きのホワイトボードに記録し、そのホワイトボードの記録を発表資料として、グループディスカッションの内容を発表し全体で共有した。また、研修会終了後、記名式の「成果共有シート」を提出してもらい、翌月にとりまとめたものを配布し共有した。

2. 春季集中FD研修会

- 1) 開催日時：2019年3月12日 13時00分～16時30分
- 2) テーマ：近年の看護の動向をもとに、改めて「広いフィールド観」を捉えなおす
- 3) 目的：
 - ① 「広いフィールド観」に関連する看護の動向を知る。
 - ② 学生に育んでほしい「広いフィールド観」を教員間で捉えなおす。
 - ③ 「広いフィールド観」を育てる教育のため、教員としての今後の取り組みや課題を見出す。
- 4) 対象：千葉看護学部全教員および次年度着任予定教員（任意）
- 5) 参加者：22名（千葉看護学部教員 17名、次年度着任予定教員5名）
- 6) 研修会の内容

この研修会は、次年度着任予定の教員にも働きかけ、5名の参加が得られた。参加者には9月に実施した夏季集中FD研修会で共有した「広いフィールド観」を想起してもらうために、夏季集中FD研修会の内容をまとめた資料を事前に配布した。自身が考える「広いフィールド観」および「広いフィールド観」を持つ学生を育てるために、教員としてできることや課題をまとめておくことを事前課題として提示した。

本学部の3名の教員へ各専門領域の看護の動向について情報提供を依頼した。情報提供のテーマは以下であった。

- (1) 「特定行為研修の意義：JCHO病院の取り組みから見て」
- (2) 「新たな病院外来機能の創造と取り組み」
- (3) 「在宅ケアとその仕組みの現状と未来」

その後、①近年の看護の動向に関する情報提供を受けて、「広いフィールド観」を持つ学生に大切であり、必要となることは何かを考える、②「広いフィールド観」を育てるための方法や課題、必要な情報（もっと学びたいこと）を教育・研究・学内運営・社会貢献といった多様な視点から話し合う、③最後に改めて「広いフィールド観」とは何かを考える、の3点についてグループディスカッションを行った。今回の研修会には次年度着任予定の教員が参加すること、また教育経験が少ない教員同士では、教育方法やその課題までを話し合うことは難しいのではないかと考え、様々な立場の教員と意見交換ができるよう、グループは複数の看護学領域・職位混合のメンバー構成と

した。夏季集中FD研修会と同様にグループディスカッションの内容はコピー機能付きのホワイトボードに記録し、そのホワイトボードの記録を発表資料として、グループディスカッションの内容を発表し全体で共有した。春季も夏季と同様、「成果共有シート」を提出してもらい、翌月にとりまとめたものを配布した。

Ⅲ. 夏季集中FD研修会および 春季集中FD研修会の成果

夏季および春季の集中FD研修会の成果について、全参加教員に対して、匿名性を保証することを明示し、かつ、本報告に用いることの同意を得た上で、研修会のグループディスカッション内容、研修会終了後に実施した研修会のテーマの適切性、目的の達成度および満足度に関するアンケート、教員個人が研修会後に提出した「成果共有シート」の3点からまとめた。

1. 夏季集中FD研修会

1) グループディスカッション内容

夏季集中FD研修会では、職位別のグループ編成にしたことで個々の教員が自分の考えを自由に表出しやすい雰囲気があり、また複数の領域が混在していることで、多様な広いフィールド観が出された。発表では職位ごとの特徴も見られ、助教・助手グループ、講師グループは、広いフィールド観は多面的で看護の大切な役割となるものと考え、准教授グループは自分の軸となり国際性や芸術に広がりを持つもの、教授グループはミクロな視野から政策や文化までのマクロな視野を含むとまとめていた。

2) 研修会のテーマの適切性、目的の達成度および満足度 (表1)

参加した教員20名のうち全教員からの回答(回収率100%)があった。

テーマの適切性については、「とても思う」17名(85%)、「やや思う」2名(10%)、「無回答」1名(5%)であり、ほぼ全員の教員が本研修におけるテーマは適切であったと回答した。また、目的の達成度については、「達成できた」12名(60%)、「おおむね達成できた」8名(40%)であり、参加教員全員が本研修の目的を達成できていた。さらに、研修の満足度については、「満足」18名(90%)、「やや満足」2名(10%)であり、本研修会に対する満足度は高い結果となった。

3) 教員個人が研修会から得た成果

「成果共有シート」の記述から、夏季集中FD

表1 夏季集中FD研修会におけるテーマの適切性、目的の達成度および満足度

		N	%
テーマは夏季FD集中研修会として適切だったか	とても思う	17	85
	やや思う	2	10
	無回答	1	5
本研修の目的は達成できたか	達成できた	12	60
	おおむね達成できた	8	40
本研修の満足度について	満足	18	90
	やや満足	2	10

研修会を通して、教員個人が得た成果としては、「広いフィールド観のイメージを教員間で共有することで、自分自身の広いフィールド観のとらえ方が広がった」「自己の価値観や教育観の振り返りができた」等の記載が多数あった。また、「学生個人のもつ広いフィールド観と看護職としての広いフィールド観の両方の面から、今後の教育を考えていく必要がある」という記載もあった。また、時間が限られており、「これらの共有の理解をどのように看護教育に活用していくか」「自己の担当領域の具体的な教育ビジョンの反映についてまでは話し合えなかった」など、今後、具体的な教育実践を考えるにあたっての課題も示された。

2. 春季集中FD研修会

1) グループディスカッション内容

春季集中FD研修会は、領域・職位混合のグループ編成としたが、各グループともに活発に討議が行われ、多方向から幅広く意見が出された。グループディスカッション終了後の発表では、「広いフィールド観」とは“自分で世界を広げる力”、“先を見据える力”、“多様性を受け入れることができる力”など、いくつかの共通認識を見出すことができた。また「広いフィールド観」を持つために学生に必要なこととして“自分の関心にアンテナをはり自ら掴もうとする力”、“広いフィールド観以前のスタディスキルの必要性”“学生の選択・決断能力の必要性”“自分の力で考えて応用できる力”“自分自身を俯瞰する力”などの意見があげられ、相互に活発な質疑応答が行われた。夏季集中FD研修会では、「広いフィールド観」の概念の検討になっていたが、春季集中FD研修会では、「広いフィールド観」を持つ学生を育成する

能力としての意見交換になったことが特徴といえる。

2) 研修会のテーマの適切性、目的の達成度および満足度 (表2)

表2 春季集中FD研修会のテーマの適切性、目標の達成度および満足度

		N	%
テーマは春季集中FD研修会として適切であったか。	とてもそう思う	18	86
	ややそう思う	2	9
	無回答	1	5
本研修の目的は達成できたか(3項目)			
① 「広いフィールド観」に関連するトピックを知る	達成できた	10	47
	おおむね達成できた	10	48
	達成できなかった	1	5
② 自身の考える「広いフィールド観」をとらえなおす	達成できた	9	43
	おおむね達成できた	12	57
③ 教員としての今後の取り組みや課題を見出す	達成できた	6	28
	おおむね達成できた	14	67
	あまり達成できなかった	1	5
本研修の満足度	満足	20	95
	やや満足	1	5

参加した教員22名のうち、21名からの回答(回収率95.5%)があった。

テーマの適切性については、「とてもそう思う」18名(86%)、「ややそう思う」2名(9%)、「無回答」1名(5%)であり、ほぼ全員の教員が本研修におけるテーマは適切であったと回答した。研修会の3つの目的の達成度については、①「広いフィールド観」に関連するトピックを知るは、「達成できた」10名(47%)、「おおむね達成できた」10名(48%)、であった。②自身の考える「広いフィールド観」をとらえなおすは、「達成できた」9名(43%)、「おおむね達成できた」12名(57%)であり、③教員としての今後の取組や課題を見出すは、「達成できた」6名(28%)、「おおむね達成できた」14名(67%)であった。ほとんどの参加教員は、3つの研修目標のすべてを達成できていたものの、数名の教員が研修目標に対して達成できなかったとの回答もあった。さらに、研修の満足度については、「満足」20名(95%)、「やや満足」1名(5%)であり、春季集中FD研修会に対する満足度は高い結果となった。

3) 教員個人が本研修会から得た成果

春季FD研修会を通して、教員個人が得た成果としては、①本研修会を通して改めて考えた「広いフィールド観」については、「多様な視点を受け入れて考えていく力」「自分で自分の世界を広げる主体性」「未来を見据える力、未知なるものへも対応できる力」「広い視野で物事を捉えることができる、自分の中に広い世界観をもつことである」「自身を含め人々の多様性を感じる観であり、立体的・重層的な観である」などであった。また、②「広いフィールド観」を持つ学生を育てるための取組みや課題については、「学生の個性を認め、それを伸ばせるような人間力を教員自身がもつ必要性がある」「看護が提供される場や役割の変化などの情報を学生に随時提供する必要がある、そのためには教員自身が最新の看護の動向を情報収集し、教育や実践に取り入れていることが必須である」「学生が何か一つでも興味・関心をもち、そこから視野を広げていくような働きかけが必要なのは」「言葉だけで伝えてもあまり興味を持ってない学生もいるので、学生たちが関心を持てるような見学演習や映像資料や事例を通して、主体的な学修を促すような教育の工夫が必要となる」などの記載もあった。

これらから、教員自身の課題を考えることを目的としたことが反映され、一人ひとりのFD課題の明確化の機会になったといえる。

IV. 「広いフィールド観」をもつ学生を育てるための今後のFD研修会のあり方

千葉看護学部の開設初年度ということもあり、FD委員会の運営や準備は試行錯誤であったが、全教員を対象とした、本学部を目指す「広いフィールド観」を持つ学生を育てるための集中FD研修会を2回開催することが出来た。

夏季集中FD研修会では、本学部の教育を象徴する言葉である「広いフィールド観」に対する捉え方には教員間でも多様な解釈があったが、「広いフィールド観」のイメージを教員間で共有することで、自分自身の広いフィールド観のとらえ方が広がった」という成果の記載があったように、正解のない「広いフィールド観」の持つ多様なイメージや考えを教員間で共有することが出来た。同時にディスカッションを通して、自分の価値観や教育観を振り返ることとなり、「学生個人のもつ広いフィールド観と看護職としての広いフィールド観の両方の面から、今後の教育を考えていく必要性」を確認する機会となったと考える。しかし、

「広いフィールド観」を持つ学生を育てるための具体的な教育までは話し合うことが出来ず課題となった。さらに、「広いフィールド観」を持つ学生を育てるための具体的な教育を検討するためには、「広いフィールド観」に対する個々の教員が持つ多様なイメージや考えをまとめ、教員間で「広いフィールド観」についての共通認識が必要であると考えた。

これを受けた春季集中FD研修会では、近年の医療や看護をとりまく状況における看護職の役割の変化を踏まえた看護の動向についても理解し先を見据えた上で、これからの看護に必要な「広いフィールド観」を捉え直すこととした。加えて、ディスカッションの視点を「学生に学んでほしい『広いフィールド観』とは？」とし、教員自身の課題を考えることも目的とした。その結果、グループディスカッションでは、「広いフィールド観」とは“先を見据える力”、“多様性を受け入れることができる力”など、育成したい能力についていくつかの共通認識を見出すことが出来た。さらに、今後の看護学教育への取り組みや課題として、教員自身に必要な能力として、“学生の個性を認めそれを伸ばせるような人間力”“最新の看護動向を情報収集し随時提供することができる力”“学生の興味・関心から視野を広げていく働きかけができる力”“学生の主体的な学修を促すような教育の工夫ができる力”などを見出すことが出来た。

以上のように、今年度の夏季と春季の集中FD研修会ではテーマを一貫して「広いフィールド観」とし

た。この2回の研修会を通して、各々の教員が「広いフィールド観」についての多様な捉え方を共有でき、教員自身に必要な能力や学生に育成したい能力と関連づけて考える機会にすることができた。加えて、集中研修としたことで千葉看護学部全教員が、「広いフィールド観」を軸に、領域や職位を超えた教員間で協働していく基盤づくりをめざし、FD委員会の年間目標とした「千葉看護学部の教員同士でFDを活性化できる基盤を作る」ことが達成できたのではないかと評価する。

今後は千葉看護学部の完成年度にむけて、「広いフィールド観」を持つ学生を育てるために教員個人および各看護学領域で具体的な取り組みを実践していくことになるが、その具体的な取り組みを共有していくFD研修会を開催していくことで、さらに千葉看護学部の教員個人が組織の一員として発展・協働していくことを目指していきたい。

引用文献

- 1) 千葉大学大学院看護学研究科附属看護実践研究指導センター. 看護学教育におけるFDマザーマップ活用ガイドVer.3. 千葉：2018.